社会福祉法人　白梅会　御幸南保育所　　2015 年 9 月 1 日号

SHIRAUMEKAISHIRAUMEKAISHIRAUMEKAISHIRAUMEKAI

所長だより

SHIRAUMEKAISHIRAUMEKAISHIRAUMEKAISHIRAUMEKAI

「子どもの叱り方を間違えないために」

今回は、叱ることについてお話ししたいと思います。

ほめる大切さを伝えると、必ず「それはわかるけど、子どもはもっと叱って育てないといけないんじゃないの？」という意見が返ってきます。

確かに、ガツンと叱れば、子どもは言うことを聞くので手っ取り早いですが、その弊害も無視することはできないのです。ほめたり叱ったりするのは何のためかというと、子どもに「悪い行いをやめさせ、正しい行いを身につけさせる」、そして、自分も幸せになり、他人も幸せにする人生を送ってほしいからです。

ところが、叱り方を間違えると、子どもの自己肯定感を損ない「自分はダメな人間なんだ」「生きていても価値のない存在」と、追いつめてしまいます。それでは、自分も他人も大切にすることはできません。ちっとも叱らない子育ても確かに問題ですが、それよりも、叱りすぎて子どもを不幸にしているほうが、はるかに多いのです。幸せな子どもを育てるためには、叱るより、ほめるほうが有効な理由を、具体的に挙げてみましょう。

1　ほめられることによって、子どもの心の成長にいちばん大切な、「自己肯定感」という、心の土台が築かれます。
2　ほめる関わりによって、親子の信頼関係が作られます。そうすると、たとえ叱っても、「親は自分のために叱ってくれているんだ」と感じるようになります。しかし、子どもが親に心を閉ざしている状態では、叱っても心に入らないどころか、「親は自分を嫌いなんだ」と思ってしまいます。
3　ほめられると、またやろう！と意欲がわきます。逆に叱られてばかりだと、すねたり、聞き分けが悪くなったりして、よい習慣が身につきにくくなります。お母さんもイライラして、悪循環になってしまいます。
4　叱りすぎると、「なぜそうしなければならないか」を学ぶ前に、「いかに叱られないか」で行動するようになるため、失敗を隠し、ウソをつくようになります。
5　「叱られるのが怖いからやらない」のは、本当にルールが身についたのとは違います。成長して恐怖心を感じなくなったときに効力を失い、自分の行動がコントロールできなくなります。

叱ることを考えるときには、ぜひこのようなことを見直していただけたらと思います。